

5・6年生から

『図書館がくれた宝物』(933ア)

ケイト・アルバス/作、

櫛田 理絵(くしだ りえ)/訳(やく)、徳間書店



第二次世界大戦下のロンドン。親代わりだった祖母(そぼ)を亡(な)くした3人きょうだいは、保護者(ほごしゃ)になってくれる人を探(さが)すため、疎開(そかい)することに。つらい日々を過(す)ごす3人にとって、図書館だけが居心地(いごこち)よい場所でした。

本が好きな3人きょうだいの、心あたたまる物語です。



『クグが拾った物語』(913イ)

いとう ひろし/作、理論社

クグノタカラバコの中は、え?と思うような物ばかり。砂(すな)つぶや、水でっぽう、イモ虫!? どれも世界を旅して、クグが拾った不思議なお話。ひとつひとつに物語があって、それこそがクグの宝物(たからもの)でした。

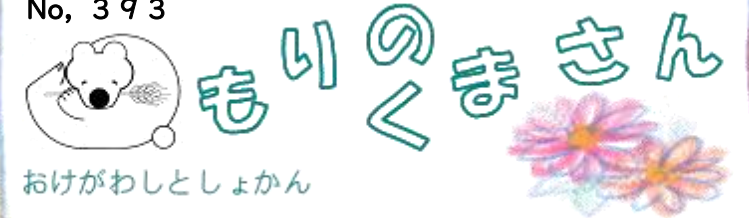
けれど、それらを見に行くのは、少し難(むずか)しそう。なぜなら、地図はなく、記事には「道に迷(まよ)って約五分」と書かれているのですから。



5月						
日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	
お休み	※毎週月曜日、桶川・川田谷図書館はお休みです。 桶川図書館 (TEL 771-0303) 川田谷図書館 (TEL 786-8846)					
おはなし会	桶川図書館・川田谷図書館 毎週土曜日 午前10時30分~11時					
	坂田図書館 (TEL 783-2150) 毎週土曜日 午前11時~11時30分					
	中央図書館 (TEL 786-6353) 毎週土曜日 午後3時~3時30分					

★「もりのくまさん」についてのお知らせ
今月の『もりのくまさん』は小学生向きです。

No. 393



2024年5月1日発行 桶川市図書館

☆今月の特集(こんげつのとくしゅう)☆

5月のゴールデンウィークは、黄金週間(おうごんしゅうかん)ともいわれています。

今月は、「宝物(たからもの)」の本を紹介(しょうかい)します。



ときを こえて

『時間(とき)の森~屋久島(やくしま)』(291ト)

山下 大明(ひろあき)/しゃしん・ぶん、
そうえん社

世界(せかい)自然(しぜん)遺産(いさん)に登録(とうろく)された屋久島は、千年、二千年と時間をかけて、豊(ゆた)かな森をつくってきました。



千年をこえて生きている「屋久杉(やくすぎ)」には、19種類(しゅるい)もの植物(しょくぶつ)が幹(みき)からそだっているものもあります。ちいさな菌類(きんるい)からおおきなほ乳類(にゅうるい)までが、いのちをはぐくみつづけています。

長い時間(とき)のいのちのつながりを、美(うつく)しい写真(しゃしん)から、味(あじ)わってください。

1・2年生(ねんせい)から

『カタカタカタ おばあちゃんのたからもの』
(Eカ)

リン・シャオペイ／さく、
宝迫 典子(ほうさこ のりこ)／やく、ほるぷ出版

おばあちゃんの カタカタカタは
すごいんだ。おきにいりの
スカート、リュック、おおきな
ふくろだって なんでも つくって
くれる。わたしの クラスの
げきのいしょうも。



でも、あるひ、カタカタカタは
おとが しなくなつて……。おばあちゃんの
だいじな だいじな カタカタカタ、
どうなつちゃうのかな？

『二年二組(くみ)のたからばこ』(913ヤ)
山本 悦子(やまもと えつこ)／作(さく)、
佐藤 真紀子(さとう まきこ)／絵(え)、童心社

二年二組には「たからばこ」が
ある。たからくんの おとしものを
見つけたら いれておく はこだ。
たからくんは おとしものや
わすれものが おおい。
「みなちゃん、えんぴつ、かして」
「ものさしも かして」



みなちゃんが まだ
つかっていても、「もう、いいだろ。かして、かして」
きょうは、みなちゃんと たからくんで
日直(にっちょく)の日だけど、ふたりは ちゃんと
できるかな？

3・4年生から

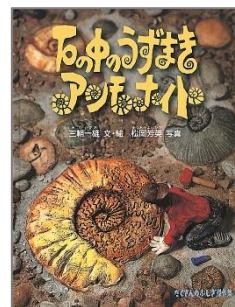
『ぼくんちの海賊(かいぞく)トレジャ』(913カ)
柏葉 幸子(かしわば さちこ)／作、
野見山 響子(のみやま きょうこ)／絵、偕成社

ぼく、良太(りょうた)の家の
屋根(やね)に、黒い
帆船(はんせん)がおちてきた。
そこから顔を出したのは、
「トレジャ」という名前の海賊。
「この世(よ)の果(は)てに
あるという青くて四角(よっしやく)でうたう
もの」をさがしているんだって。
らんぼうで、おおぐいで、気がみじかくて、
いばりんぼう。そんな「ぼくんち」の海賊、
トレジャのおはなしです。



『石の中のうずまきアンモナイト』(457イ)
三輪 一雄(みわ かずお)／文・絵、
松岡 芳英(まつおか よしひで)／写真、
福音館書店

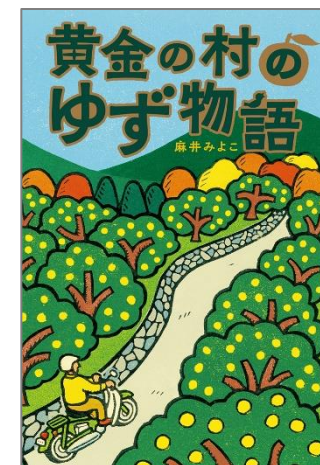
川原(かわら)にあるたくさんの
石ころ。ぼくはその中から、
ある石をさがしています。
「うずまき石」です。
「アンモナイト」という言葉は
みなさん知っているかも
しれません。うずまき石、
アンモナイトは、太古(たいこ)の海に生きた生き物が、
長い時間をかけて化石(かせき)になったものです！ ぼくは
アンモナイト化石を見つけるために、川底(かわぞこ)の
石を調べます。ぶじに発見できるでしょうか？



知っているようで分からないアンモナイトの世界を
のぞいてみてください。

5・6年生から

『黄金(おうごん)の村のゆず物語』(625オ)
麻井(あさい) みよこ／著(ちよ)、ポプラ社



1960年、徳島県(とくしまけん)木頭村(きとうそん)にやってきた農業技師(ぎし)の白木弘(うすきひろし)さんは、産業のないこの村の「お宝(たから)作物」として、ゆずに目をつけました。ゆずは成長が遅(おそ)いので、はじめは苗木(なえぎ)開発(かいはつ)に乗り気ではなかった村の人々も、白木さんの人柄(ひとがら)にひかれて、しだいに協力(きょうりょく)するようになり……。

ゆずが村の特産品(とくさんひん)になるまでの、本当(ほんとう)にあったお話(お話し)です。

